

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①熊谷徹著『ドイツ人はなぜ、年290万円でも生活が「豊か」なのか』青春出版社 (2019年2月刊, 187頁, 新書判)</p> <p>ドイツ生活29年の著者によれば、ドイツ人はわれわれ日本人に比べて、お金や消費に振り回されず、それ以外の価値を重視している印象が強いという。例えば静かな環境。仕事の疲れをいやすためには不可欠だと考える。また森や公園など自然を満喫することも重視。いずれもお金では測れない価値だ。さらにお金より大切に考えているのが「自由時間」。多くのドイツ人は、残業はしない。仕事はほどほどだ。企業や店は過剰にサービスを提供する必要がないので、自社の労働者の負担は軽減し、自由時間が増える。生活にかかるコストも低下する。年収が少なくても、自由時間、芸術活動、趣味、自然との触れ合いなどによって「心の豊かさ」と安定を得ることは可能だと提言する。</p>	<p>③山口周著『仕事選びのアートとサイエンス』光文社 (2019年3月刊, 244頁, 新書判)</p> <p>サブタイトルに「不確実な時代の天職探し」とあるが、本書は単なる転職ノウハウ本ではない。「天職」とは、予想もしない時期と場所で他者から与えられるものと定義し、そうした「いい偶然」をより良い形で起こさせるための思考様式や行動パターンこそが「天職への転職」に最も必要な技術だと指摘。そのために不可欠な5つの要件として「好奇心」「粘り強さ」「柔軟性」「楽観性」「リスクテイク」をあげる。また人脈の広さと信用の深さの「乗数効果」も重視。そのうえで、仕事選びを考える際には、まずはその組織が持っている文化や価値観をオープンに受け入れ、自分の強みや能力についていろいろと実際に試し、本来の自分であろうとする力を高める必要があるという。</p>
<p>②日経産業新聞編『あの会社のスゴい働き方』日本経済新聞出版社 (2019年2月刊, 230頁, 文庫判)</p> <p>2018年6月から同年11月にかけて、日経産業新聞に連載した長期企画をまとめた。完全なリモートワークを認め、海外旅行をしながら働けるシステム開発会社。大阪のウェブマーケティング会社では、休み中や終業後には会社からのメールや電話に対し「つながらない権利」を行使し、心身を休める。働き方改革でも注目を集めた勤務間インターバル制度を先行導入した総合商社も取材。改革先進企業としては、副業を認める製薬会社に注目した。副業を解禁しているのは社会人経験3年以上の社員。解禁2年半で約1,200人中、約70人が届け出ている。内容としては割薬局が最も多い。このように本書は、日本の雇用文化が変わりつつあるなか、個人や会社はどうすべきかを例示。</p>	<p>④牧内昇平著『過労死 その仕事、命より大切ですか』ポプラ社 (2019年3月刊, 341頁, 四六判)</p> <p>過労死やパワハラ死によって、大切な家族を亡くした遺族11人から聞いたやり場のない怒りや悲しみを紹介する。日本最大規模の公共放送機関の若い女性記者の場合、過労死を社会問題として報じるメディアの側の犠牲者だった。2013年に相次いで実施された大型選挙の取材で倒れた。母は「もう一生、心から笑える日は来ない」と語る。渋谷のステーキ店では店長を務めていた青年が自死。追いつめたのは、極度の長時間労働と上司からの暴行だった。パワハラした上司からの謝罪は現在も実現していない。著者は、過労で判断力を失う前に①あなたの代わりはいる②辞めるのは本人の自由③せめて1時間だけ現場から逃げてみる——と考え、自分で身の安全を守るよう提唱する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2019年4月—5月労働図書館受け入れ)

- ⑤堀江貴文著『僕たちはもう働かなくていい』小学館(205頁, 新書判)
- ⑥デービッド・アトキンソン著『日本人の勝算』東洋経済新報社(323頁, 四六判)
- ⑦木島康雄監修『最新働き方改革法と労働法のしくみ:図表で早わかり』三修社(255頁, A5判)
- ⑧村田毅之著『労働法の再構築』晃洋書房(xi+283頁, A5判)
- ⑨森岡孝二著『雇用身分社会の出現と労働時間』桜井書店(309頁, A5判)
- ⑩林拓也著『職業間距離の計量社会学』ナカニシヤ出版(vi+162頁, A5判)
- ⑪マルクス・エンゲルス著『企業別組合とマルクス・エンゲルスの労働者組合論』共同企画ヴォーロ(251頁, A5判)
- ⑫藤原智美著『この先をどう生きるか』文藝春秋(190頁, 四六判)
- ⑬大江英樹著『定年前:50歳から始める「定活」』朝日新聞出版(220頁, 新書判)
- ⑭水野雅之著『サポート資源が進路選択および就職活動に及ぼす影響』風間書房(vi+188頁, A5判)

### 労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書124,704冊、洋書32,563冊、和洋の製本雑誌26,719冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間:9:30~17:00  
 休館日:土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659  
 利用資格:どなたでもご自由にご利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています

